
【ヘタリア】追憶のヘタリア

再来

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

【ヘタリア】追憶のヘタリア

【Nコード】

N0699Z

【作者名】

再来

【あらすじ】

黒い星に願い事をする、願いが叶う
という言い伝えを聞いた。
国が消えて、世界が壊れていく。
希望と悲劇の二次創作。

プロローグ

昔のはなし。

全てが闇に包まれて
永遠の夢を悲しむ
道なき道は道ではなく

———
なんだっけ。

？

「獣道だろ？」

横に居たロマーノが口を挟んだ。

「え、そうなの？」

イタリアは手に持っていた本を閉じて置いた。
その本の名前、《三日月道》

道はなんだ、とか、道につながる、
夢、だとか、嘘、だとか、
いろいろ書かれているが、
とりあえずは絵本に入る、不思議な本。
イタリアはまた開き、読み始めた。

言い伝えに残るは
紅い華と蒼い華
両方開けば道になる
道にならないことなれば
運命今に開かずや
黙も闇も溶け込むだろう
戻ることままならず
猛き者終に及び
新しく世界は終わる
新しき世界は始まる

それもまた

「運命、かあ」
ヴェ、ヴェ、と鳴いた。

「なんか怖い本だな、それ。こんなものスペイン持ってたのか？」
ロマーノは、本を覗き見た。
挿絵は、黒い宇宙に、青い惑星、地球が、
罅をいれて割れる様が、クレヨン調で描かれていた。

と、まあ、ここはスペインの家である。

ロマーノはいつも通り、部屋の整頓としてスペインの部屋を掘り返していたが、
イタリアは意味もなく、ここに来ていた。

ロマーノはイタリアから本をひつたくと、パラパラとページを捲り始めた。
そこで、気になるページを見つけたのか、その場所をまじまじと見た。

挿絵には、黄色い髪の毛で、どこかの人形みたいなものが、大きく描かれていた。

というか、顔がアップで映されたようなものだ。

背景が真っ黒なのに、その人形の肌も黒いのである。

全体的に真っ黒なページに、白い文字でこう綴られていた。

人及び国は傲慢である

未知なるものに目を奪われる

幸せを永遠に求める

ある人形はこう告げた

そんな輩はわたくしが

茨で包んで育みましよう

育った花は私のもの

私だけのお人形

それを聞いたある国は

栄えていたのに争いで

争いで消滅した

「なんだこれ……」

「^{いさか}争いで？それって、戦争かな？」
「しらねえけど……」

巻きつく^{つた}薦は一度きり
犇^{ひし}めく祭壇
悲劇に憑りつかれ
何時をも漂う
歩いて歩いて
迷うに値し
友を傷つけ
いつまでこの世を彷徨うか

「こんなことばっか書いてあるのか？」
「ヴェー、スペイン兄ちゃん、変な趣味ー」
と、そこで、スペインがタルトを持って帰ってきた。
「ロマーノ、イタちゃん！タルトやで！ベルギーが作ってくれたん
や」
「わあい！！ベルギー大好きー」
「ふん、休憩にするぞ、コノヤロー」
と、散らかった部屋のだ真ん中で、食べ始めた二人。

あの本には、まだ続きがあった。
ただ、破られていた。
何処に行ったのかもわからない。

その本には闇がある。暗い暗い、闇が。

まだ、何も始まらない。

静寂が終わる。終わりが始まる

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0699z/>

【ヘタリア】追憶のヘタリア

2011年12月3日09時06分発行